一般社団法人日本呼吸療法医学会
2017 年度（第 40 期）第 1 回理事会 議事録

日　時：2017 年 10 月 5 日（木）13：30～16：30
場　所：東京八重洲ホール　3 階 302 会議室
出席者：川前金幸（理事長）、藤野裕士（副理事長）、今中秀光、大塚将秀、小谷　透、
志馬伸朗、蝶名林直彦、西田　修、布宮　伸、竹田晋浩、神津　玲、森松　靜、
山本信章（各理事）、落合亮一、橋本　悟（各監事）　［敬称略］
陪　席：小笠原聡（事務局）

【開　　会】（川前理事長）

・理事会開催に必要な理事の過半数の出席があることが報告され、開会が宣言された。

Ⅰ．報告事項

１．前回理事会・2017 年定時社員総会議事録（案）の確認・承認（川前理事長）

・前回議事録・2017 年定時社員総会議事録は、原案通り承認された。

２．事務局からの報告（大塚理事）

・本会名誉会員の沼田克雄先生が、2017 年 9 月 7 日（木）にご逝去された。理事会一同で黙祷を捧げた。

３．第 39 回日本呼吸療法医学会学術集会報告（布宮前会長）

・参加者は 1,910 名で、当初目標の 1,500 名は達成した。参加者内訳は会員約 600 名、非会員 1,200 名で、会員が占める割合は全体の 1/3 であった。
・事前登録の締め切りが早すぎるという意見があった。
・一般演題は口演約 130 題、ポスター約 50 題、依頼講演なども含めた総演題数は約 350 題を数えた。
・代議員のアンケート結果は総じてよい評価をいただいた。各会場の集客予想にもとづいて会場設定を行ったが、盛況となって混雑した会場もあった。
・会期 2 日間というのが、かなり厳しくなってきたという実感がある。多職種が参加していることもあり、3 日間に延長することも含め今後の課題として挙げられる。
・WEB 抄録、抄録アプリなども活用したが、用意した抄録集 500 部は初日夕方までに完売し、非会員参加者などの抄録集の需要は依然としてあると考えられる。
・収支報告は詳細を確認したのち改めて報告を行う。凡その数字としては、学会準備金 200 万円を差し引いて、140～150 万円程度の黒字が見込まれる。
・今後、会長への慰労金の割合や準備金の扱いなどは引き続き理事会で検討を行う。
・今後、企業からの寄付はますます減っていくことが予想される。趣意書の形式はコンベンション任せではあるが、連結決算を導入した以上、ある程度学会としても関

与していく必要がある。送付先などもあわせて検討し、次期会長に申し送りを行う仕組みも構築していく必要がある。

4．第40回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況（竹田会長）

・趣意書を各企業に配布する段階まで準備が進んでいることが報告された。後日、代議員宛に演題企画などに関するメール配信も行い企画の要望も受け付ける。

・懇親会、会長招宴などは学術集会会場の東京ドームホテルで開催する。

・来年度のプロ野球日程を注視しつつ、役員と名誉会員には事前宿泊案内を行う。それが終わり次第、一般向けにも宿泊の応募を行う予定である。

・会費や参加形態などは検討中。

・演題募集は年明けに開始予定。HPは間もなく開設予定。

5．第41回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況（藤野副会長）

・2019年8月3日（土）～4日（日）、大阪国際会議場にて開催する。

・テーマは現在検討中であることが報告された。

6．各委員会報告

1）代議員審査・役員選挙2018の進め方（西田理事・大塚理事）

・手順は前回の代議員審査・役員選挙を踏襲して作成したことが報告された。

・今回の総会日時にあわせ、新代議員の締め切りは2018年2月末、役員選挙立候補受付は6月末までとした。

・本案にて進めることが承認された。

2）小児在宅人工呼吸療法マニュアル第1・2期予約販売結果（今中理事）

・委員の努力により、第1・2期予約販売を終えて約189万円の黒字であることが報告された。

・第3期予約販売に向け、先の理事会で1,500部の増刷を承認した。

・今後の販売促進方法として、本会主催のセミナー開催時に参加料と抱き合わせで販売・Amazon の利用・学術集会時の事前申込特典・会員懇親会時に賞として贈呈・小児関連学会や該当施設などに寄贈などが挙がり、継続審議となった。

3）医師向けセミナーBasic/Advancedの報告（大塚理事）

・9月に医師向けBasicとAdvancedコースを京都で実施し、それぞれ約150名、約100名の参加者を得たことが報告された。

・講義内容について、BasicにおいてAdvancedの内容が盛り込まれていた講義も散見された。講演時に考慮する必要がある。

・双方の共通したアンケートでの要望として、現在現場で臨床を行っている講師の講

義を求める声が複数あった。講師人選の今後の課題である。
・今後は、開催時に各理事が持ち回りで関わるようにし、セミナー内容を全員で共有できるよう理事長から提案があった。

4）呼吸療法専門医 2017 年度〈更新・新規〉書類審査結果（藤野理事）
・更新対象者 9 名中、8 名の更新が報告された。1 名は定年退職・退会に伴う更新辞退であった。
・新規申請は 8 名あり、全員が書類審査を通過した。11 月に筆記試験を行う。
・筆記試験は記述問題 6 問中 2 問を選択して回答する方式を採っている。次年度からは選択枝問題の導入も委員会で検討しているとの報告があった。
・専門医のための教科書作成について委員会で審議を継続しており、WEB 掲載で公開する方式が検討されている。その中から筆記試験問題を作問する流れを想定している。各種のガイドラインも出題範囲として活用していく。
・委員会では、コメディカルを指導できることを呼吸療法専門医の到達目標と考えていることが報告された。なお、呼吸療法専門医取得に関するメリットのアンケート調査を 8 月に実施し、その結果も今後の方針に反映させていく。
・専門医取得のハードルはあまり低くせず、更新においても高いハードルの設定にしていくことを考えている。
・周囲には研鑽も兼ねて受験を勧めてほしいことが提案された。
・知識だけでなく、更新要件を整えていく必要がある。
・更新に必要な講習受講歴の管理については、e 医学会の活用も含めて今後電子的な方法も検討しなくてはならない。
・まず学会内で教育講演の講師ができるなどのメリットを設けることも考慮する。
・代議員の更新に呼吸療法専門医の資格を含める案も、代議員審査委員会で審議していく。

5）RST 実態調査アンケート調査報告（布宮理事）
・チーム医療推進委員会では各施設の RST 活動の実態をアンケート調査した。
・RST の学会認定・登録については、WEB 登録の開始直前の段階まできている。
・WEB 登録の依頼者名を両学会の理事長名にする必要があるかどうか、理事会メンバーでデモ画面を確認して決定する。依頼に当たっては、意義・目的を明記する必要がある。
・理事会での承認が得られるまでは、WEB 画面一般公開は保留とする。

6）ハイフローセラピー使用状況調査報告（蝶名林委員長）
・現場では使用が進んでおり、診療報酬として昨年 160 点が算定された。
・社会保険委員会では代議員宛に HFT・NPPV 使用状況調査を行った。調査結果では、施設によって HFT と NPPV の使用状況が全く異なっていた。保有機種の問題もあ

るが、適応に関する明確な指針がないことがうかがえる。
・今後、診療報酬改定に関する厚労省との交渉に活用していく。

7）第 11 回 ECMO シミュレーション・ラボ開催連絡（竹田理事）
・2018 年 2 月 24 日（土）・25（日）に千葉で開催する。対象は、ECMO 治療がチームで行われている施設に勤務して ECMO 治療の大筋が理解できている人とする。
・参加費は 40,000 円で医師以外にとっては高いという声もあるが、内容はそれに匹敵する価値が十分にある。

7．その他
・持ち回り理事会（審議 2 件、連絡 8 件）決定事項の承認（川前理事長）
・リハビリテーション関連 10 団体が厚生労働省に提案しようとしていた 2018 年診療報酬改定に向けての診療加算新設の件は、正式に取り下げることが決まり、急性期リハについては日本集中治療医学会と協力して進めていくこととなった。対象患者が重複する本会もアピールしていく必要があるとの報告があった。
・次回理事会は 2018 年 2 月 8 日（木）に東京で開催する。

Ⅱ．審議事項

1．慶弔金に関する内規案（大塚理事）
・名目を『供花代など』して弔電なども含むこととする。
・金額には『目安として』という文言を追記する。
・以上の修正を加えたうえで内規改正案が承認された。

2．各委員会からの審議事項
1）遠隔医療に関する取り組みの立ち上げについて（川前委員長）
・遠隔医療について本会で取り組みを始めるにあたり、まずは会員に広く周知し、関心のある多職種のメンバーが懇談会のような場で意見交換するところから始める。そのなかから今後の展開・方針などが出てくるよう道筋を作る。
・遠隔から実際に指示を送って治療方針を示すということと、メガデータの集積という 2 つの方向性が考えられる。
・産学連携分野としての可能性も秘めている。
・活動スケジュール案として、以下を検討している。

2017 年 11 月頃	遠隔医療に対する取り組みを学会 HP で周知、立ち上げメンバーの募集
2018 年 2 月	第 40 期第 2 回理事会でメンバーを報告、日本集中治療医学会学術集会（2/21～23、幕張）会期中に懇話会を計画
2018 年 3 月	活動計画の立案～6 月　第 40 期第 3 回理事会で進捗を報告
2018 年 8 月	定時社員総会、学術集会時に活動を計画発表

２）「機関誌『人工呼吸』の査読方針と査読者の心得」について（藤野理事）

・査読方針の統一に向け、本会の指針を作成した。

・注意点をチェックボックス化した用紙も作成し、査読者は査読結果と合わせて提出するという提案があり、了承された。

３．倫理委員会アンケート案について（小谷理事）

・呼吸療法と臨床倫理に関して求められる本会の取り組みをアンケート調査で明らかにしたいという希望があることが報告された。

・呼吸療法専門医および代議員を対象としたアンケート案が提示された。

・アンケートの中に『日本集中治療医学会』の文言があるが、集中治療医学会主催の臨床倫理に関するセミナーと混同しないように下線を付すなど微修正することを条件として承認された。

４．『人工呼吸器ハンドブック』について（川前理事長）

・丸川名誉会員より上記ハンドブック改訂版の執筆と継続を学会に依頼したいとの要請があった。

・学会で 1 冊購入して内容を確認し、実現の可能性を探ることとなった。

５．多職種のための認定制度設置について（川前理事長）

・本会会員においては、看護師・臨床工学技士・理学療法士の占める割合が 4 割を超え、それら多職種の会員数増加・呼吸療法に関する臨床能力向上などの取り組みも求められている。ついては本会が各職種に対して行う認定制度の設置案が提起された。

・認定対象職種は看護師・臨床工学技士・理学療法士で、それぞれ「呼吸療法医学会認定 看護師」「呼吸療法医学会認定 臨床工学技士」「呼吸療法医学会認定 理学療法士」と称することが提案された。

・資格・条件（案）のたたき台など具体策の作成をチーム医療推進委員会に依頼することが承認された。

６．ARDS 診療ガイドラインについて

・2016 年版 Part2 の英訳費用は、日本集中治療医学会と折半することを確認した。

・呼吸器学会で 5 年後の改訂のための準備委員会創設の議論が行われている。関連 3 学会で意見交換して進めていくことが確認された。